



おいしさ抜群、 いばらきメロン

露地トンネル栽培でおいしいメロンができました

毎年春から秋にかけて、いばらきのおいしいメロンがお店に並びます。
甘くてみずみずしい、価格も手ごろないばらきのメロン。
温暖な気候と水はけの良い土、そして農家の愛情が、いばらきメロンの
おいしさの理由です！

4月から始まるメロンの出荷

種類	時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
オトメメロン		■							
アンデスメロン			■	■					
クインシーメロン				■	■				
タカミメロン				■	■				
アールスメロン						■	■	■	■

日本一のメロン産地いばらき

茨城県は、全国のメロン収穫量の二十三パーセントを誇る全国一のメロン産地です。県内のメロンの作付けは、太平洋側の銚田市と茨城県、県西部の八千代町で全体の約八十パーセントを占めています。

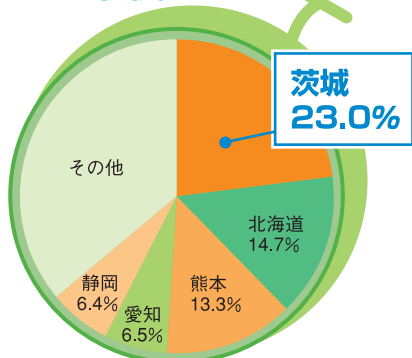
茨城のメロン栽培は、昭和三十八年に旭村(現銚田市旭地区)と八千代町で、プリンスメロンが栽培されたことにより本格的に始まりました。水はけの良い土地、温暖な気候が適していたため、以後メロン栽培が盛んに行われるようになりました。昭

和五十年代後半からは、アンデスメロンやアムスメロンといったネット系メロンの生産が主になり、最近ではクインシーなど赤肉系のメロンの栽培量が増えています。

銚田地区の主力品種となっているアンデスメロンは、豊かな香りとコクがあり、マスクメロンに近い味わいです。赤肉系のクインシーメロンは、甘くなめらかな舌触りで、ペーアカロテンを多く含んでいます。アールスメロンは、一般的にマスクメロンと呼ばれる高級品で、果肉の質・味・香りともに最高です。県西地区を代表する品種のタカミメロンは、大玉で糖度が高くまろやかな味の特徴です。

県内のメロンの産地は、四月から十月にかけてさまざまな品種のおいしいメロンを出荷しています。その一つ一つは、茨城の生産者が手塩にかけた自信作です。

メロン収穫量(H17)



タカミメロンの産地から

「今年のメロンは、最高です！」
 県西部地区の産地の中でも、特にメロン栽培が盛んな八千代町では、五月下旬からタカミメロンの出荷が始まります。

タカミメロンの栽培は、一月末に育苗ハウスに種をまき、ハウス内の温度を管理しながら苗を育て、二月末に植付けをします。栽培はビニールハウス栽培と、露地トンネル栽培の二つの方法で行います。ビニールハウス栽培は五月下旬から収穫期を迎えますが、じっくり自然の中で収穫期を迎える露地トンネル栽培は、ハウスよりも遅く六月からの収穫になります。露地トンネル栽培は、県西地方のメロン栽培の特色とも言えます。

都内で橋本知事がメロンのトップセールス!

5月18日、品川区のスーパーで、橋本知事が自ら先頭に立っていばらきメロンのトップセールスを行いました。メロンのおいしさはもちろん、いばらきが全国一のメロンの産地であること、いばらきメロンは価格も手ごろなこと、東京に流通するメロンの半分はいばらき産であることなどを買い物客にアピールしました。県では今後も積極的に「いばらきメロン」のPRを展開していきます。

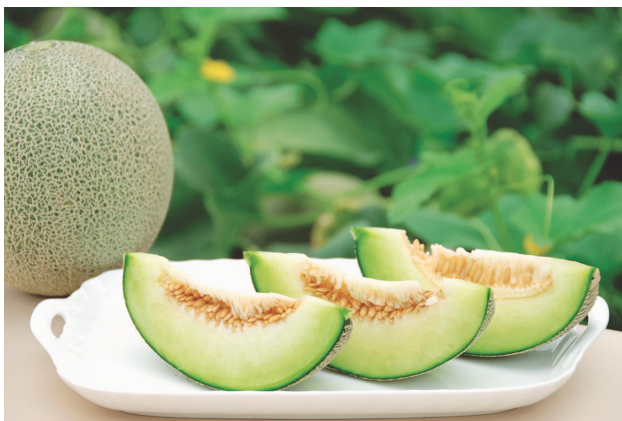
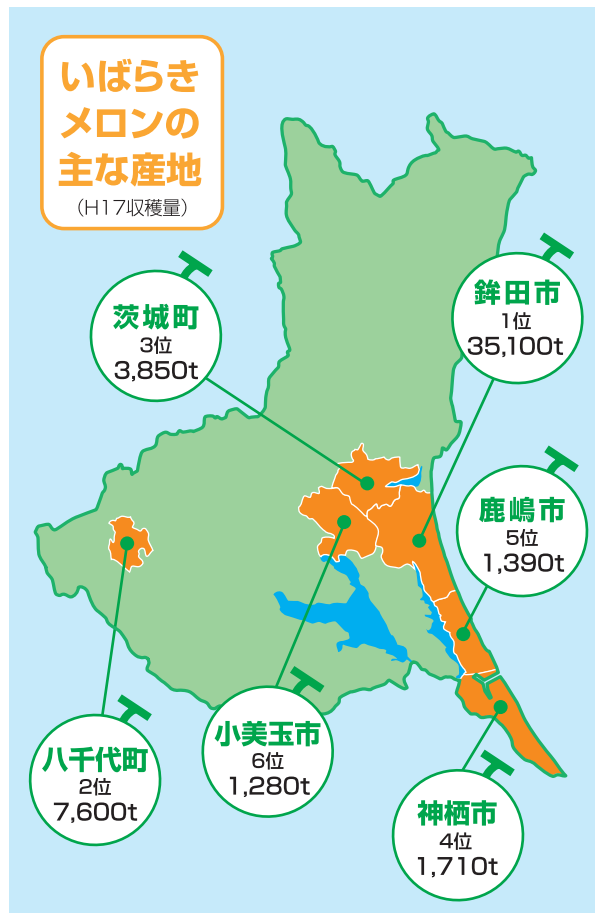


八千代町の生産者の秋葉照雄さんのメロンも、収穫期を迎えています。秋葉さんによれば「メロンづくりで重要なことは、まず育苗管理。ここで間違えると、収穫期がずれ込んでしまいます。作業で大変なことは、ミツバチ交配をする前に枝の剪定(せんてい)を行うのですが、細かい作業なので神経を使います。さらにハウスの温度管理や通風も重要で、その日の天候に合わせて細心の注意を払っています」ということでした。



メロンを収穫するまでは一日も気を抜かず、まさにつきつきりて手間ひまかけて栽培されています。こうして愛情込めて育てられたタカミメロンの特色は、糖度が高いことで、なんと十七度から十八度になります。収穫前にはJA常総ひかりの担当者がハウスで糖度を測定し、定められた糖度に達していることを確認して収穫されます。

「今年のメロンは、今までで最高の出来栄です。甘く大粒でおいしい最高のタカミメロンができました。この春の昼と夜の寒暖差でいっそう甘味が増したのでしょう。皆さん、八千代のおいしいメロンを食べてください」と、メロンづくり四十年のキャリアを持つ秋葉さんは話していました。



問 県園芸流通課
 うまいもんどころ推進室
 ☎029(301)3996
 029(301)3996
 029(301)3996